

協働評価シート

事業名		山根大通りストリートミュージアム		実施年度	平成21年度	
部 局		企画部		課 所	別子銅山文化遺産課	
団体等の名称		角野愛護班連絡協議会				
評価項目		評価者	評価	左の評価の説明		
相互理解	それぞれの特性や立場を合理解したか	お互いの特性や立場を十分に認識、尊重して、事業を実施することができたかどうかを評価。	団体等	A	別子銅山産業遺産をテーマとしたので、大変やりやすかった。	
			市	A	山根大通りから見える市民のランドマークとしてシンボルとなっている旧山根製錬所煙突が新居浜市の所有になったことで、協働のフィールドとなったことが活かされた。	
			相互協議結果			
対等	双方が対等に立っていたか	対等な立場で協議、事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A	担当職員の目線が市民目線だったので、十分できた。	
			市	A	プレイベント、メインイベントの実施に当たり役割分担ができた。	
			相互協議結果			
自主	市民の自主的な活動が尊重されたか	自主的活動を十分に活かして事業効果を増加させたかどうかを評価。	団体等	A	提言内容をよく理解していただき、私たちのやる気を十分に引き出してもらえた。	
			市	A	ストリートミュージアムとしてパフォーマンスする内容の展開が自由に行われた。	
			相互協議結果			
自立	市民の自立化を阻害しなかったか	依存体質が助長されるなど、市民の自立化が阻害されることがなかったかどうかを評価。(新たな自発的事業展開につながり自立化が進んだ場合はA評価)	団体等	A	徹底した討議で、信頼関係が確立された。	
			市	A	特に、煙突山の歌の発表というプレイベントの実施については、市民の自発的発想を助長できた。	
			相互協議結果			
目的共有	双方が協業を目的としたか	協働事業の目的は十分に共有して事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A	市民が新居浜市を誇りとする心の育成ができた。	
			市	A	別子銅山産業遺産をキーワードとして新居浜市を誇りとする気持ちを醸成できた。	
			相互協議結果			

情報共有	双方がお互いの情報を共有できたか	情報を十分に共有しながら事業が実施できたかどうかを評価。	団体等	A	打ち合わせ会の積み重ねで、双方の情報を出し合って共有できた。
			市	A	煙突山を見てきた人たちの掘り起こし、その人間関係の物語を見出すことをともに考えた。
			相互協議結果		
公開	双方の関係を十分に公開できたか	全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。	団体等	A	地域の分散会場での発表という形で公開できた。
			市	A	角野公民館をはじめとした発表会場で公開できた。
			相互協議結果		
「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか		「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。	団体等	A	地域内の各種団体の連携ができるとともに、行政との窓口が生まれた。
			市	A	地域情報が掘り起こされた。
			相互協議結果		協働事業に取り組むスタンスが異なっていたので、メリットの観点が違ったようであるが、双方に相乗効果があった。
市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたのか、		十分に市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。	団体等	A	見慣れていた煙突が地域の共通の宝であることが、再確認できた。
			市	A	多数の参加者で関心を高めた。町の誇りから、子供たちが帰りたくなる町への取り組みが、今後展開され、銅の道を「往還道」として捉える構想が生まれてきた。
			相互協議結果		

事業の目的、目標が達成されたか、どのような成果があったか等（自由記述）

団体等	角野校区のテーマではあるが、それは新居浜市全体のテーマでもあり、広がりをもつことが世話した人や参加した人に理解できた。小さな思いの積み上げが大きなものになる可能性が感じられた。別子銅山の鉢山町として中心的位置を占めた旧角野町が山から浜へとつながる考えの「別子往還」が浮かび上がってきた。動く新しい動きとして輪が広がることを次のステップへの原動力として頑張っていきたい。
市	120年余り市民のランドマークとしてシンボルになっており、市民の原風景である旧山根製錬所煙突という別子銅山産業遺産をキーワードとして、市が提唱する「近代化産業ロマンの息づくまちづくり」とタイアップした形で、新居浜市を誇りと思う心の醸成ができた。別子銅山産業遺産と人々のつながりを紐解き、子供が帰りたくなるまちづくりの取り組みが始まった。そこから、銅の道を「別子往還道」として新居浜市再発見の構想が生まれてきた。
相互協議結果	「別子銅山産業遺産」、「新居浜市を誇りとする」をキーワードに市民の目線、行政の目線の両方から考えを出し合って、郷土新居浜市のまちづくりを進めていきたい。

